

第6章 エラーコード表

1 項目チェック内容

(1) 道路現況総括台帳

項目名	新規・修正	削除
単位区分	1, 2, 3	不可
土木事務所・支所	存在する事務所コード・支所コードの組み合わせであること。	不可
路線番号	路線名コードに存在する路線番号（4桁）であること。	不可
ブロック	0以外の数字	不可
ユニット	数字	不可
分割番号	0～9	不可
市町村コード	リストボックス内に存在する市町村コードであること。	
大字コード	リストボックス内に存在する大字コードであること。	
現道・旧道区分	1, 2, 3	
上下線区分	1, 2	9
一方通行区分	1, 2	9
路線分割	数字	
有料・無料区分	1, 2	
有料道路コード	有料道路コードに存在する番号であること。	チェックボックス
自歩道専用区分	1, 2, 3, A, B, C	9
自動車専用区分	1	9
地形区分	1, 2, 3, 4	
区間延長	0以外の数字	
車道幅員	数字	
中央帯幅員	数字	
路肩（左）（右）	数字	
歩道等幅員（左）（右）	数字	
法面等幅員（左）（右）	数字	
舗装幅員	数字	
建設年次 元号	1, 2, 3, 4, 5	9
年	年号との関係により該当する数字（当年度まで）	
基本分類	1, 3, 5, 7	9
箇所区分 ※基本分類が 3, 5 の場合 必須	1, 3, 5	9
区間状況	1, 3, 5, 6, 8, 9	
改良・未改良	1, 2, 3, 5	9

項目名	新規・修正	削除
車線数	0～9	
歩道等種別（左）（右）	1, 2, 3, 4	9
曲線半径	数字	
縦断勾配	数字	
交差箇所 道路	数字	
〃 鉄道（民）	数字	
〃 鉄道（専）	数字	
立体横断	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8	9
バス路線	1, 2, 3, 4, 6	9
異常気象時 通行規制区間	1, 2, 3, 4, 6	9
地震緊急輸送路	1, 3, 6, 8	9
都市計画・市街化区域	1, 2, 3, 4	9
照明施設数	数字	
側溝種類	10, 21, 29, 30, 90	99
法面種類		
落石防止柵工	1	9
金網設置工	1, 2, 3,	9
吹付工/法枠工	1, 2, 3, 4, 5, 8, A, , B, C, D, E, F	9
安全施設種類	1, 2, 3, 8	9
舗装変更区分	1, 2, 3	9
〃 路面種別	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, A, B, C	9
〃 元号	1, 2, 3, 4, 5	9
〃 年	年号との関係により該当する数字（当年度まで）	
前回交通量区分	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7	チェックボックス
今回交通量区分	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7	チェックボックス
観測地点	道路交通センサスの調査単位区間番号（11桁）を入力する。 該当がない場合は”99999999999”を入力する。	チェックボックス
歩道形式 左	1, 2, 3	9
歩道形式 右	1, 2, 3	9
中央帯 施設	1	9
植樹内容	1, 2, 3	9
歩道等 施設	1, 3	9
植樹内容	1, 2, 3	9
路線接続 県コード	14, 19, 20, 22, 23	99
〃 市町村コード	リストボックス内に存在する市町村コードであること。	999
〃 事務所	存在する事務所コードであること。	99

項目名	新規・修正	削除
〃 支所	存在する支所コードであること。	9
〃 路線番号	路線名コードに存在する路線番号（4桁）であること。	チェックボックス
〃 ブロック番号	数字	チェックボックス
〃 路線分割	0～9	チェックボックス
ブロック重用 路線番号	路線名コードに存在する路線番号（4桁）であること。	チェックボックス
〃 ブロック	数字	チェックボックス
占有物件 電気	1, 2, 8	9
〃 電話	1, 8	9
〃 有線放送	1	9
〃 上水道	1	9
〃 下水道	1	9
〃 ガス	1	9
〃 光ケーブル	1	9
〃 その他	1, 2, 3, 8	9
〃 キャブ	1	9
〃 ミニキャブ	1	9
〃 CCBOX	1	9
〃 情報 BOX	1	9
〃 自治体管路	1	9
〃 共同溝	1	9

(2) 橋梁原票

項目名	新規・修正	削除
橋梁番号	番号（5桁）	
橋梁名（カタカナ）	文字	
橋梁名（漢字）	文字	
箇所名（カタカナ）	文字	
箇所名（漢字）	文字	
橋梁種別	1, 4, 5	
路面位置	1, 2, 3, 4	9（Ⅱのみ可）
使用材料	S, K, P, M, W, T, Z	9（Ⅱのみ可）
構造形式	B, G, GI, CGI, GH, CGH, GB, CGB, GT, T, A, L, LO, R, CS, CSI, CST, SU, SUI, SUB, SUT, PB, BP, BK, PCB, SGI, HS, TGB, CB, BGT, Z	999（Ⅱのみ可）
床版材料	S, K, P, Z, C	9（Ⅱのみ可）

項目名	新規・修正	削除
下部基礎	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, P, S, K, R, Z	9 (Ⅱのみ可)
下部構造	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, W, C, E, K, R, T, I, Z	9 (Ⅱのみ可)
適用示方書類	999, 215, 314, 331, 339, 342, 347, 348, 353, 355, 402, 406, 408, 414, 424, 429	9999
橋格	1, 2, 3, 8	9
耐荷荷重	数字	0
現況	1, 2, 3	
通行制限内容	1, 2, 3	9
最大支間長	数字	0
径間数	数字	0
検査路	1	9
下部構造分離	0, 1	
他域データ 県	14, 19, 20, 22, 23	99
〃 事務所	存在する事務所コードであること。	99
〃 市町村	リストボックス内に存在する市町村コードであること。	9999
〃 路線番号	路線名コードに存在する路線番号(4桁)であること。	チェックボックス
〃 路線分割	0~9	チェックボックス
〃 他域延長	数字	チェックボックス
〃 管理者	1007, 1309, 14, 19, 20, 22, 23	99
河川名コード	リストボックス内に存在する河川名コードであること。	99
道路名コード	リストボックス内に存在する道路名コードであること。	9999
鉄道事業者コード	リストボックス内に存在する鉄道事業者コードであること。	999
鉄道線名コード	リストボックス内に存在する鉄道線名コードであること。	999
塗装面積	数字	
変更区分	1, 2, 3	
塗装種類	A, B, C, K, T	9
塗装年次 元号	1, 2, 3, 4, 5	9
年	年号との関係により該当する数字(当年度まで)	
補修年度 元号	1, 2, 3, 4, 5	9
年	年号との関係により該当する数字(当年度まで)	
落橋防止 橋座拡幅	1	9
落橋防止 変位制限構造	1	9
落橋防止 落橋防止構造	1	9
落橋防止 その他	1	9
橋脚補強巻立	C, P, R, S, Z	9
橋脚補強時期 元号	1, 2, 3, 4, 5	9

項目名	新規・修正	削除
年	年号との関係により該当する数字（当年度まで）	
橋脚補強適用基準	407, 408, 414, 424, 429	999

(3) トンネル原票

項目名	新規・修正	削除
トンネル番号	番号（4桁）	
トンネル名（カタカナ）	文字	
トンネル名（漢字）	文字	
箇所名（カタカナ）	文字	
箇所名（漢字）	文字	
トンネル分類	1～7	
有効高	数字	
有効幅員	数字	
有効面積	数字	
壁面区分	1～7	
現況	1, 2, 3	
他域データ 県	14, 19, 20, 22, 23	99
〃 事務所	存在する事務所コードであること。	99
〃 市町村	リストボックス内に存在する市町村コードであること。	9999
〃 路線番号	路線名コードに存在する路線番号（4桁）であること。	チェックボックス
〃 路線分割	0～9	チェックボックス
〃 他域延長	数字	チェックボックス
〃 管理者	1007, 1309, 14, 19, 20, 22, 23	99
照明施設	1～6	9
換気施設	1～7	9
非常電話	1	9
押しボタン式 通報装置	1	9
火災検知器	1	9
警報表示板	1	9
点滅灯（警告灯）	1	9
音信号発生機	1	9
消火器	1	9
消火栓	1	9
水噴霧装置	1, 2	9
誘導表示板	1	9
排煙装置	1	9
避難通路	1	9
非常用電源装置	1	9

項目名	新規・修正	削除
給水栓	1	9
無線通信補助施設	1	9
ラジオ再放送設備	1	9
拡声装置	1	9
監視装置	1	9
トフィックカウンター	1	9
簡易 CO 濃度計	1	9
CO 濃度計	1	9
トンネル等級	D, C, B, A, AA	99

(4) 踏切原票

項目名	新規・修正	削除
踏切番号	番号 (4 桁)	
踏切名 (カタカナ)	文字	
踏切名 (漢字)	文字	
箇所名 (カタカナ)	文字	
箇所名 (漢字)	文字	
鉄道事業者名	リストボックス内に存在する鉄道事業者コードであること。	999
鉄道線名	リストボックス内に存在する鉄道線名コードであること。	999
単線・複線区分	1, 2	
踏切道種別	1~4	
歩道等施設	1~11	99
幅員差 起点 (+, -)	1, 2	9
幅員差 起点 (長さ)	数字	
幅員差 終点 (+, -)	1, 2	9
幅員差 終点 (長さ)	数字	
交差角度	1~90	
道路勾配 起点 (+, -)	1, 2	9
道路勾配 起点 (%)	1~20	
道路勾配 終点 (+, -)	1, 2	9
道路勾配 終点 (%)	1~20	
見通し距離 起点 左	1~7	
見通し距離 起点 右	1~7	
見通し距離 終点 左	1~7	
見通し距離 終点 右	1~7	
交差点距離 起点	1~50	
交差点距離 終点	1~50	
遮断時間	1~999	

2 関連チェック 1

必須項目 ○ 入力不要 × どちらでもよい △
 (初期値以外) (初期値)

記入項目	事務所	支所	路線番号	ブロック	ユニット	分割番号	市町村コード	大字コード	現道・旧道コード	上下線分離	一方通行	路線分割	有料・無料区分	有料道路コード	自歩道専用区分	自動車専用区分	地形区分	区間延長	車道	
修正項目																				
未重用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	△	△	△	○	○	△	
重用	ブロック重用	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	△	○	△	△	△	○	○	×	
	ユニット重用	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	△	○	△	△	△	○	○	△	

記入項目	中央帯	路肩	歩道等	法面等	舗装幅員	建設年次・元号	〃・年	基本分類	箇所区分	区間状況	改良・未改良	車線数	歩道等種別	曲線半径	縦断勾配	交差箇所・道路	〃・民鉄	〃・専鉄	立体横断施設	
修正項目																				
未重用	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
重用	ブロック重用	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	ユニット重用	△	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

箇所区分：基本分類が橋梁、トンネルの場合に記入

必須項目 ○
(初期値以外)

入力不要 ×
(初期値)

どちらでもよい △

記入項目	バス路線	異常気象	緊急輸送路	都市計画	照明施設数	路側状況・路側	〃・法面	〃・安全	舗装・路面種別	〃・年号	〃・年	前回交通量	今回交通量	観測地点番号	歩道形式	中央植樹帯・施設	〃・内容	歩道植樹・施設	〃・内容
修正項目																			
未重用	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
重	ブロック重用	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
用	ユニット重用	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

記入項目	路線接続・起点	〃・終点	ブロック重用路線番号	ブロック重用ブロック	占用物件・電気	〃・電話	〃・有線	〃・上水	〃・下水	〃・ガス	〃・その他	〃・キャブ	〃・ミニキャブ	〃・C C B O X	〃・自治体管路	〃・情報B O X	〃・共同溝
修正項目																	
未重用	△	△	×	×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
重	ブロック重用	△	△	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
用	ユニット重用	△	△	×	×	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

3 関連チェック 2

(1) 車道幅員、中央帯、路肩、車線

- ・車道幅員=ZERO のとき
中央帯、路肩、車線はすべて ZERO である。
- ・車道幅員>ZERO のとき
自歩道専用区分≠1、2、3 ならば（独立専用自歩道ではない）
車線数≠ZERO である。

(2) 基本分類によるチェック

- ・橋梁（3）のとき
 - A. 区間延長 ≥ 2.0 である。
 - B. 法面幅員（左）=ZERO または（右）=ZERO である。
- ・トンネル（5）のとき
 - A. 区間延長 ≥ 1.0 である。
 - B. 法面幅員（左）=ZERO かつ（右）=ZERO である。
- ・踏切（7）のとき
 - A. 区間延長 ≥ 4.8 である。
 - B. 法面幅員（左）=ZERO かつ（右）=ZERO である。
 - C. 車道幅員 ≥ 0.50 である。
 - D. 交差箇所の民鉄+専鉄>ZERO である。

(3) 区間状況によるチェック

- ・未重用（1）のとき
 - A. 車道幅員
自歩道専用区分≠A、B、C のとき 車道幅員>ZERO である。
自歩道専用区分=A、B、C のとき 車道幅員=ZERO である。
 - B. 改良、未改良
分割番号=0、1 のとき 改良、未改良≠SPACE である。
分割番号≠0、1 のとき 改良、未改良=SPACE である。
 - C. 路面種別≠SPACE である。
 - D. 路肩幅員、基本分類
 - D-1) 分割番号=ZERO のとき
 - ・基本分類=1、7 のとき 路肩（左） ≥ 0.50 かつ（右） ≥ 0.50 である。
 - ・基本分類=3、5 のとき 路肩（左） ≥ 0.25 かつ（右） ≥ 0.25 である。
 - ・基本分類=SPACE のときエラーである。
 - D-2) 分割番号≠ZERO のとき
 - ・自歩道専用区分≠A、B、C のとき 路肩（左）+路肩（右） ≥ 0.50 である。
- ・重用（3）のとき
区間延長>ZERO である。
- ・交通不能（8）のとき
 - A. 車道幅員
自歩道専用区分≠A、B、C のとき 車道幅員>ZERO である。
自歩道専用区分=A、B、C のとき 車道幅員=ZERO である。
 - B. 改良、未改良
分割番号=0、1 のとき 改良、未改良≠SPACE である。
分割番号≠0、1 のとき 改良、未改良=SPACE である。
 - C. 路面種別≠SPACE である。
 - D. 路肩番号の頭1桁=0、1、3 である。

- (4) 路面種別のチェック
- ・ 区間状況 ≠ 3、6 のときのみ行う。
 基本分類 = 7 のとき 路面種別 = 1 ~ 6、A、B、C
 基本分類 = 1、3、5 のとき 路面種別 = 1 ~ 4、7、8、A、B、C
- (5) 舗装年度のチェック（舗装年度（1）についてのみ行う）
- ・ 路面種別 = 1 ~ 7、A、B、C のとき
 舗装年度、年号 ≠ SPACE かつ 舗装年度、年号 ≠ ZERO である
 - ・ 路面種別 = 8 のとき
 - A. 舗装年度、年号 ≠ SPACE かつ 舗装年度、年号 ≠ ZERO ならば基本分類 = 3 である。
 - B. 舗装年度、年号 = SPACE かつ 舗装年度、年号 = ZERO は OK である。
- (6) 舗装年度、建設年次のチェック
- ・ 基本分類 = 3、5 のとき
 当年度 ≥ 舗装年度、建設年次
 - ・ 基本分類 = 1、7 のとき
 前年度 ≥ 舗装年度、建設年次
 - ・ 基本分類 = 3 かつ 区間延長 ≥ 14.5 かつ 区間状況 ≠ 3、5、6 ならば、各年号 ≠ SPACE である。
 - ・ 基本分類 = 5 かつ 区間状況 ≠ 3、5、6 ならば、各年号 ≠ SPACE である。
- (7) 建設年次と区間状況
- ・ 区間状況 = 1、8 のとき 建設年次 ≠ SPACE である。
- (8) 曲率半径と区間状況
- ・ 曲率半径 ≠ ZERO のとき 区間状況 = 1、8 である。
- (9) 縦断勾配と区間状況
- ・ 縦断勾配 ≠ ZERO のとき 区間状況 = 1、8 である。
- (10) 路側状況（法面）と法面幅員
- ・ 路側状況（左）（右）各々の法面状況 ≠ SPACE のとき
 路側状況（左）（右）各々 > ZERO である
 （路側状況（左）（右）各々 > ZERO で法面状況 = SPACE はエラーでない）
- (11) 道路交差と基本分類
- ・ 道路との交差数 ≠ ZERO のとき 基本分類 = 1、5 である。
- (12) 鉄道交差と基本分類
- ・ 鉄道との交差数 ≠ ZERO のとき 基本分類 = 1、3、7 である。
- (13) 立体横断施設と基本分類
- ・ 立体横断施設 ≠ SPACE のとき 基本分類 = 1、3 である。
- (14) 中央植樹帯施設と中央帯幅員
- ・ 中央植樹帯施設 ≠ SPACE のとき 中央帯幅員 ≥ 1.00 である。

- (15) 歩道等植樹帯施設と歩道等幅員
- ・歩道等植樹帯施設（左）（右）各々≠SPACE のとき
歩道等幅員（左）（右）各々 ≥ 0.75 である。
- (16) 歩道等種別と歩道等幅員
- ・歩道等種別（左）（右）各々=SPACE のとき
歩道等幅員（左）（右）各々=ZERO である。
 - ・歩道等種別（左）（右）各々≠SPACE のとき
歩道等幅員（左）（右）各々≠ZERO である。
- (17) 独立専用自歩道チェック
- ・自歩道専用区分=1、2、3 または路線番号の頭1桁=4 のとき
 - A. 路線番号の頭1桁=4 かつ自歩道専用区分=1、2、3 である。
 - B. 車道幅員 ≥ 0.75 （区間状況=3 を除く）。
 - C. 前回、今回交通量はともに SPACE である。
- (18) 今回交通量
- ・自歩道専用区分≠1、2、3 または区間状況≠5、6、8、9 のとき
今回交通量≠SPACE である。
- (19) 箇所区分、区間状況、基本分類
- ・基本分類=3、5 かつ区間状況≠3 のとき 箇所区分≠SPACE である。
- (20) 区間状況、大字コード
- ・区間状況=1、8 のとき 大字コード≠SPACE である。
- (21) 占用物件、区間状況
- ・占用物件欄の各項目のうち、ひとつでも≠SPACE であった場合
区間状況=1、8 である。
- (22) 事務所、市町
- ・KEY 部の事務所コードと市町の対応が取れているかどうか作成要領のコード表でチェックする
- (23) 有料道路のチェック
- A. 現道・旧道区分=1、3 である。
 - B. 区間状況=1、3 である。
 - C. 路線番号=0136、0362、0414、1004、1012、3323 である。
- (24) 路線接続のチェック（起点、終点それぞれチェックする）
- ・県コード=22 のとき
 - A. 事務所、支所≠SPACE であること。
 - B. 事務所、支所、市町コードは作成要領のコード中に存在し、さらに市町、事務所、支所の対応がとれていること。
 - C. 路線接続の市町コードは当該ユニットの市町コードと異なること。
 - D. 路線番号は、路線名漢字コードファイル中に存在するか“0052” “0246” であること。
 - E. ブロックは ZERO 以外の数字であること。ただし、路線が“0052” “0246” は除く。

- ・ 県コード=SPACE のとき
 - A. 路線接続の市町、事務所、支所、路線番号=SPACE であること。
 - B. 路線接続のブロック、路線分割=ZERO であること。
- ・ 県コード≠22、SPACE のとき
 - A. 路線接続の事務所、支所=SPACE であること。
 - B. 県コード（“22”）、当該ユニットの市町コード、KEY 部の路線番号と路線接続の県、市町コード、路線番号が作成要領のコード表に存在し、かつ、対応がとれていること。
 - C. 路線接続のブロック、分割番号=ZERO であること。

(25) 舗装年度

- ・ 舗装年度（1）>舗装年度（2）>舗装年度（3）である。

(26) 有料無料区分、有料道路コード

- A. 有料無料区分=1 のとき 有料道路コード=SPACE である。
- B. 有料無料区分=2 のとき 有料道路コード≠SPACE である。

(27) 自歩道専用、自動車専用コード

- ・ 自歩道専用≠SPACE かつ自動車専用≠SPACE はエラーである。

(28) ブロック重用

- ・ ブロック重用レコードのとき
 - A. 区間状況=3 である。
 - B. 被重用ブロック=ZERO ならば被重用路線は 0001、0052、0138、0139、0246 のうちいずれかである。

(29) 箇所区分、路線接続

- ・ 橋梁、トンネル箇所区分=3、5 のとき 路線接続の起点、終点どちらにもデータがないとき（初期値のとき）エラーである。

(30) 自歩道専用、基本分類

- ・ 自歩道専用区分=A、B、C のとき 基本分類=3、5 である。